

**第40回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会  
東北Iブロック代表決定大会運営規定**

1. 登録について

- (1) 平成30年度スポーツ少年団に登録をしている指導者及び小学4年生から6年生の団員。
- (2) 登録は、主管が定めた用紙による。
- (3) 登録選手は、代表指導者（監督）1名、引率指導者1名、コーチ2名、スコアラー1名、トレーナー(有資格者)、選手14名とする。
- (4) リトルリーグに登録している者は、登録を認めない。
- (5) 県スポーツ少年団に登録したチームのみ出場を認める。
- (6) 登録者は、全員スポーツ障害保険に加入すること。
- (7) 参加チームは、単位団旗を必携のこと。

2. チーム構成について

- (1) 競技者（選手）は、14名以内で構成する。
- (2) 監督・コーチは20歳以上の責任者で、かつ指導者として県スポーツ少年団に登録した者に限る。**代表指導者（監督）及び引率指導者は必ず有資格者で有ること。**
- (3) 監督・コーチ・選手は同一ユニフォームを着用しなければならない。ただし、スコアラーについては、トレーニングウェア上下着用を認める。
- (4) 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番とし、選手は99番までの通し番号とする。
- (5) ベンチに入る者は、上記の者とし、その他の者は所定の場所に居ること。
- (6) 保護者及び応援団は、主催者が定めた場所で応援すること。

3. 用具について

- (1) 試合球は、ナガセケンコーC号とする。
- (2) バットは、(公財)全日本軟式野球連盟公認（JSBB）のものを使用すること。
- (3) 金属製スパイクの使用は禁止する。ただし、ゴム製スパイクは認める。
- (4) マスクは、公認（JSBB）マスクを使用すること。
- (5) 傷害防止から、耳付きヘルメットの着用を義務づける。
- (6) 捕手は、マスク・ヘルメット・プロテクター・レガース・ファールカップを着用すること。

4. 大会規則（ルール）について

- (1) 試合のベンチは、組合せの若い方が一塁側とする。
- (2) グラウンドルールについては、大会本部及び審判委員の指示に従うこと。
- (3) 試合は、全て(公財)全日本軟式野球連盟規則（学童部）の適用と大会運営規定を併用して行う。
- (4) 全試合7回戦とし、得点差によるコールドゲームは適用しない。延長戦は採用せず、7回終了後同点の場合は、8回より※タイブレーク方式を適用する。

※特別延長ルール(タイブレーク方式)

- ①無死満塁から継続打順として続行し、10回まで行い決着つかない場合は抽選で勝敗を決する。
- ②無死満塁のランナーは、一塁は前回の最終打者、二塁は一塁の前打者、三塁は二塁の前打者を配置する。
- ③選手交代は、通常の延長戦と同様規則で認められている選手の交代は許される。

- (5) 投手の投球制限について
- ① 1日7イニングまでとする。
  - ② 1日特別延長戦2イニングまでとする。
  - ③ 特別延長戦に登板できる投手は、特別延長戦前のイニングを投げ切った投手又は、登板していない投手。
  - ④ 投球イニングの取り扱いについては、3分の1（アウト1つ）未満の場合でも、1イニング投球したものと数える。
- (6) 交流試合についても、7回戦を原則とするが、90分の試合時間を採用する。ただし、最低5回までおこなうこととする。また、最終回において同点の場合は特別延長を行わず、引き分けとする。
- (7) 投手の投球練習は、初回及び投手交代時8球以内とし、他のイニング交代時の投球数は、4球以内とする。いずれも審判委員に従うこと。
- (8) 打者は、バッターボックスに速やかに入り、打撃姿勢をとること。監督のサインは、バッターボックス内で受けること。
- (9) 攻守交代は、駆け足で行うこと。
- (10) 投手が捕手のサインを受ける時は、必ずプレートに位置すること。
- (11) 代表指導者（監督）または指導者（コーチ）が、投手のところにいく回数制限
- ① 代表指導者（監督）または指導者（コーチ）が、同一イニングに同投手のところへ2度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。ただし、交代した投手が他の守備位置につくことは許されるが、同一イニングには再び投手には戻れない。
  - ② 捕手または内野手が1試合に投手のところへ行ける回数を3度以内とする。ただし、代表指導者（監督）または指導者（コーチ）と一緒に行った場合は除く。特別延長戦となった場合は、2イニングに1度行くことが出来る。
- (13) 禁止事項について
- ① 足を高く上げてスライディングは、危険防止のため禁止する。
  - ② 野手の空タッグは、アンフェアな行為である。
  - ③ 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
  - ④ 投手は、変化球を投ずることは出来ない。投球した場合はペナルティ（1ボール）を課すこととする。また、同一の投手が再度変化球を投じた場合は投手を交代させ、その投手は大会期間中投手を務めることが出来ないものとする。
  - ⑤ 試合中の選手の身体の安全を守るため、本塁等での意図的な体当たりや、各塁での危険なスライディングを禁止する。